

牛久：学校周辺に見る自然

第75号 ひたち野西近隣公園

2012年3月25日発行

< 冬の水辺公園 ～4. 昆虫とクモ >

まぼろしの「冬の水辺公園」シリーズ。今回は、昆虫とクモの冬ごしのようす。



エゴノキ、ハンノキ、コナラなど、いろいろな木の枝や幹に卵のうをつくる。成虫は、ふだんは木の上で生活する。

まずは、カマキリの卵のうから。水辺公園で一番多く見られたのが、ハラビロカマキリの卵のうでした。すでに紹介した、エゴノキやハンノキなど、いろいろな木の枝や幹についていました。高さも3メートルくらいで手の届かないところから、1メートルもないところまでいろいろ。成虫は、ふだんは木の上で生活しているカマキリです。卵のうは雨風や寒さ、乾燥をやわらげてくれるでしょう。



チョウセンカマキリの卵のう（左）とオオカマキリの卵のう（右）。

歩いたら、きつともっとたくさん見つかっただろうと、残念に思いました。

数は多くないけれど、チョウセンカマキリとオオカマキリの卵のうも見つかりました。チョウセンカマキリの卵のうは、水辺のヨシの茎、高さ1メートルくらいのところ。オオカマキリの卵のうは、低木の枝のかたまりの中、高さ70センチくらいのところにありました。皆さんと一緒に



クリの太い枝に、びっしりとはりついていたクリオオアブラムシの卵かい。

同じく卵で越冬していたのが、左のクリオオアブラムシ。クリの太い枝にびっしりとはりついていました。これが全部ふ化したらと想像すると、ちょっと気持ち悪いかもしれませんね。



こちらは、イラガのまゆ。
まゆの中で前蛹（ぜんよう）
で冬を越し、春にさなぎに
なって、6月ころ羽化する
そうです。右のは、昨年羽
化したものですね。このカ
プセルの中で、寒さや乾燥
をしのいでいるのでしょう。

枝先につくられたイラガのまゆ(左)。前蛹(ぜんよう)で冬を越して春にさなぎになり、6月に羽化。右は羽化済み。



次は、みの虫の仲間。
枯れ葉や枯れ枝を、ね
ばねばした糸でからめ
て蓑(みの)をつくり、
その中で終齢幼虫で冬
を越します。上2枚の
写真のように、枝にあ
る程度の角度をもって、
しっかりとついている
のがチャミノガ、下左
と下中のように大きく
て(チャミノガの倍く
らい)だらりとぶら下
がっているのがオオミ
ノガです。また、下右
の2枚のようにとても
小さくて木の幹などに



チャミノガ(上2枚：枝に角度をもってしっかりとつく)。
オオミノガ(下左・中：大きくだらりとぶら下がる)。
チビミノガ(下右2枚：とても小さく見つけにくい)

溶けこんで見つけにくいのがチビミノガの仲間
のようですが、これはちょっと自信ありません。



幹の割れ目に、クヌギカメムシ(卵で越冬)の仲間が死んでいました。やはり、裸のまま寒さや乾燥に耐えぬくのは厳しいのでしょうか。成虫で冬をこす昆虫は、コクワガタなどのように朽木の中で過したり、ナミテントウのように集団でかたまったりするほかは、ウラギンシジミなどのように、ただじっとして、エネルギー消費を抑えながら春を待つのです。幹の割れ目で死んでいたクヌギカメムシの仲間(卵で越冬)。



ネムノキの幹で、ひなたぼっこ？をしていたケブカクロバエ（左）と、落ち葉の中で死んだようにじっとしていたキタキチョウ（右：写真をとっていたら立ち上がりましたが、またすぐ中にもぐっていきました）。

成虫越冬の昆虫は、見つかりにくいところでじっとしているものが多いので、上見の時には、上の2種類しか見つけられませんでした。これも、皆さんと一緒にいっしょにおおぜいの目で探せば、きつともつと見つけられたと思います。来年度に期待しましょう。



太い枝の分かれ目のくぼみにいた、カグヤヒメグモ。網にひっかかったタネとくらべて小さいことが分かる

クモの中にも、成虫で冬を越すものがあります。上のカグヤヒメグモもそうです。タネとくらべて、小さなクモであることが分かるかと思ひます。それにしても「かぐや姫グモ」とは、なんともすてきな名前ですね。



な名前ですね。

最後に、卵で越冬するジョロウグモの卵のう。右の写真では、ハラビロカマキリの卵のうも一緒に写っています。

これはエゴノキですが、木の種類によって、虫のつきやすいものとそうでないものがあるようですね。 【理科支援員 宮内】

ジョロウグモの卵のう。左：コナラの幹につくられた。

右：エゴノキの幹につくられた（ハラビロカマキリの卵のうも）。